

グランドスラム東京 2022



にいぞえ さき
新添 左季 3等陸尉

令和4年12月3日から4日までの間、東京体育館において柔道グランドスラム東京2022が行われた。自衛隊体育学校からは、第2教育課柔道班 濱田尚里1等陸尉及び新添左季3等陸尉の2名が出場し、新添3尉が金メダル、濱田1尉が銀メダルを獲得した。本大会は、オリンピック、世界選手権、ワールドマスターズに次ぐ国際大会であるとともに、2023世界選手権の日本代表選考を兼ねる大会である。

圧倒的な立技

**新添 全試合一本勝ち
完全勝利**

大会1日目、女子70kg級の2回戦から登場した新添3尉はオランダの選手から合技一本、スウェーデンの選手から内股一本を奪い、危なげなく準決勝に進出した。

準決勝の相手は、東京オリンピック出場者のロドリゲス選手（ベネズエラ）。ここまで足技が冴える新添3尉は、巧みな組み手から華麗な足捌きで内股をかけるとロドリゲス選手はクルッと回り、残り1分40秒で一本勝ちを取め決勝進出を決めた。



着実に国際大会で結果を残す新添3尉

決勝の相手も東京オリンピックに出場しているコグラン選手（オーストラリア）。開始40秒、新添3尉はキレのある払い腰で相手にプレッシャーをかける。得意な背負投を狙うコグラン選手だが難なく耐えた新添3尉は、巧みな組み手から前後内外と多彩に足技を狙い、残り1分20秒、小外刈りで技ありを奪うがビデオ判定により取り消しとなった。しかし、新添3尉は攻撃のテンポをあげプレッシャーを強めると、負けじと前に出てきた相手に抜群のタイミングで膝車をかけ、文句なしの一本で金メダル獲得を決定させた。

本大会オール一本勝ちの圧倒的な内容で優勝し、2023年の世界選手権、そしてパリ五輪に向け大きな一歩を踏み出した新添3尉を、もう誰も止められない。

試合後、新添3尉は、「次のワールドマスターズで勝ちきって、世界選手権の代表を掴み取りたい。」と抱負を語った。

試合内容

2回戦	○一本【合技】△ポリングK (オランダ)
準々決勝	○一本【内股】△エリクソンI (スウェーデン)
準決勝	○一本【内股】△ロドリゲスE (ベネズエラ)
決勝	○一本【膝車】△コグランA (オーストラリア)

濱田 準優勝 惜しくも

大会2日目には、女子78kg級の2回戦に東京五輪金メダリストの濱田1尉が登場した。韓国の選手を相手に横四方固で一本勝ちし、迎えた準々決勝の相手は国内の強敵である梅木選手（ALSOK）。お互いに得意の内股を警戒しつつ立技での攻防が続くなか、相手が足技を仕掛けようと動いた瞬間、絶好のタイミングの出足払で技ありを奪うと、間髪入れずに横四方固に移行し、合技一本で準決勝進出を決めた。

準決勝の相手は、東京オリンピック銅メダリストで実力者のワグナー選手（ドイツ）。開始早々、小内刈で技ありを奪うとそのまま抑え込んで合技一本、秒殺で決勝進出を決めた。

決勝の相手は、高山選手（三井住友海上）との日本人対決となった。試合開始最初の攻防、立技から寝技に移行すると濱田1尉は相手を抑え込みにかかるが相手も必死に防御する。息を呑む展開が続くゴールデンスコアに突入後、相手の大外刈を腹ばいで防いだ。腕を決められたまま抑え込まれ一本負けとなり、惜しくも銀メダルとなった。78kg級の表彰台には、濱田1尉を含み日本人3名が並んでおり、今後熾烈な代表争いとなっていくが、本大会で世界の強敵に圧勝するだけでなく、立技の成長も見せた濱田1尉らしく、自分のペースで目標に突き進んでほしい。

濱田1尉は、「たくさんの応援ありがとうございました。次の大会では優勝できるように頑張ります。」と語った。



世界が認める寝技で会場を魅了する濱田1尉

試合内容

2回戦	○一本【横四方固】△キムJ (韓国)
準々決勝	○一本【合技】△梅木真美 (日本 ALSOK)
準決勝	○一本【合技】△ワグナーA (ドイツ)
決勝	△一本【横四方固】△高山利加 (日本 三井住友)

